

子どもが考える 3つの「あ」

18日に4～6年生の学級代表、各委員会代表が集まり、今年度1回目の代表委員会がありました。議題は「3つの『あ』について見直そう」でした。御存じのとおり、本校がめざす子どもの姿として、「あいさつ」（礼をただす）、「あとしまつ」（時を守る）、「あつまり」（場を清める）に取り組んでいます。この3つの「あ」について、これまでの行動を振り返り、よりよい学校にしていくために、今後どう取り組んでいけばよいか考えるものでした。



1 「あいさつ」について

現状として、「大きな声できていない」、「目を見ていない」、「自分からする人が少ない」、「子ども同士できていない」などの意見が出ていました。具体的な解決策としては、「目を見て、聞こえるように、立ち止まって」、「毎日何回以上と目標を決めてする」などの意見が出されましたが、話し合いの結果、「生活委員会がお手本を示す」、「上限を決めず、つねにあいさつをする」という取組に決まりました。

2 「あつまり」について

「(移動中)しゃべっている」、「人を待たせている」などの現状が報告されました。その解決策として、「集会の前も後もしゃべらない」、「時計を見る」、「近くの人が注意する」、「6年生が先に来て静かに待つ」という意見が出ましたが、「まず自分から並ぶ→並んでいない人に声をかける」「集会委員会がアナウンスする」にままりました。

3 「あとしまつ」について

できていないところとして、「トイレのスリッパ」、「ゴミが落ちている」、「そうじ道具・ロッカー」などが挙げられ、中には「気付かないふり」という意見も出されていました。話し合いの結果、「生活委員会がチェックして報告する」、「スリッパを並べていない人に声をかける。気付いた人が並べる。」という取組に決まりました。

子どもたちは、「私もそう思う」ということに気付き、考えていました。それをすぐ全員が実行するのは難しいかもしれませんが、まずは実際に取り組もうとする気持ちが大切です。道徳科も同じことが言えますが、建前を述べるだけでなく、自分たちの生活の仕方や態度を見つめなおし、それをああでもない、こうでもないと改めようとすることに価値があります。「自分たちができることを考え、学校をよりよくしたい」という意識が広がり、実践に向けて努力する姿を多く見たいと思います。

夏はすぐそこ・・・プール掃除

日中は夏を感じるくらい暑くなってきました。そこで、19日、プールを掃除しました。先陣は5年生。まだ、泥で汚れたプールの中を水で洗い流しました。そして仕上げは6年生。プールの壁や細かい汚れを丁寧に落としていました。1時間で写真のように、すっかりきれいになりました。これで、夏の学習の準備が一つできました。それを見て、下学年の子どもから「早くプールに入りたいな」という声が聞こえてきました。

今年は、新型コロナウイルス感染症予防もあって、従来どおりの水泳学習ができない部分もあるかもしれませんが、体力作りと自分の身を守る学習を主眼に、準備したいと思います。



底に泥が溜まっていたプールが



こんなにきれいになりました。